

HELLO, NEW CITY.

夢や希望がかなうまち



「スーパースマートシティ」



私たちの
「ちょっと未来」の
生活を見てみよう！

マンガ

「スーパースマートシティ」

子どもから高齢者まで、誰もが豊かで便利に安心して暮らすために



地域新電力や太陽光発電、冷熱エネルギーなどの本市が持つ資源を効果的に活用する取り組みや、市民一人ひとりの環境に配慮した行動の充実による

脱炭素社会

「スーパースマートシティ」は、100年先も発展し続けるまちの姿「NCC(ネットワーク型)コンパクトシティ」を土台に、「地域共生社会」(社会)、「地域経済循環社会」(経済)、「脱炭素社会」(環境)の3つの社会が、「人」づくりの取り組みや「デジタル」技術の活用によって発展する「夢や希望がかなうまち」です。

宇都宮市は、SDGsの達成にも貢献できる、2030年ごろのまちの姿として、「スーパースマートシティ」を目指しています。

問 政策審議室 ☎(632)5056

「スマートシティ」は聞いたことがあるけど、「スーパー」が付くとどうなるの？もっと最先端のデジタル技術をたくさん使ったこと？

「スーパースマートシティ」について、詳しく教えてー！

それじゃ、上のイラストを見てみて。「NCC」の上に、「地域共生社会」「地域経済循環社会」「脱炭素社会」の3つの社会がつくられているのが「スーパースマートシティ」なんだ。

まず、「NCC」はコンパクトなまちが公共交通でつながった、みんながいつまでも暮らしやすい「まちの土台」のようなもの。そのしっかりとした土台の上で、子どもから高齢者まで、みんなが絆を深めて、誰もが誰かを支える人になれる「地域共生社会」になっているんだ。そして、女性や若者など、いろいろな人が生き生きと活躍したり、いろいろな産業が集まってくることで、モノやお金が地域の中でしっかりと回る「地域経済循環社会」がつくられたり、環境面に配慮した、みんなの活動で「脱炭素社会」も実現したりするんだ。「スーパースマートシティ」はそんな素敵なまちなんだよ！

夢や希望がかなうまち

地域で生活するさまざまな人たちの問題を、地域の住民や団体などが「我が事」として考え支え合うとともに、医療・介護・福祉などの多様な機関を分野を越えて「丸ごと」つなげていく取り組みなどによる

地域共生社会



次世代産業の集積・育成や起業などを支援するとともに、大谷やプロスポーツなどの地域資源を最大限に活用し、市内で人・モノ・情報が交流することで生まれる

地域経済循環社会



「スーパースマートシティ」の実現は世界共通の目標である SDGs の達成にも寄与します



ネットワーク型コンパクトシティ

NCC

持続可能なまちの土台



デジタル技術は、そんなま



ちや人のつながりをより

一層強くして、そして、生活を豊か
かで便利にするものとして、上手
にしっかり使っていくんだよ。



「スーパースマートシ

ティ」は、人もモノも、み
んながつながる元気なまちなんだ
ね！最初に聞いた時には、もっと
難しく、自分たちからは遠い世
界の話なのかと思っちゃった。

でも、実際に宇都宮市に住んで
いる人の生活がどう変わっていく
のかも気になるな。



そうだよね。じゃあ、上の
イラストにあるような取

り組みがもっともっと進められる
とどうなるかイメージしやすいよ
うに、年齢や性別、世帯構成、住
んでいる場所（居住区域）などを、
実際に宇都宮市に住む人たちに近
づけた「4つの市民モデル」ごと
に、その人たちの「ちょっと未来」
の生活がどのように変わるのかを
マンガにしてみたよ。



みんなの夢や希望がかな
う輝いたまち「スーパース

マートシティ」の姿をミヤリーと
一緒に見てみよう！

モデル1 鈴木さん



プロフィール

- 70歳、男性
- 単身
- 郊外部に住む

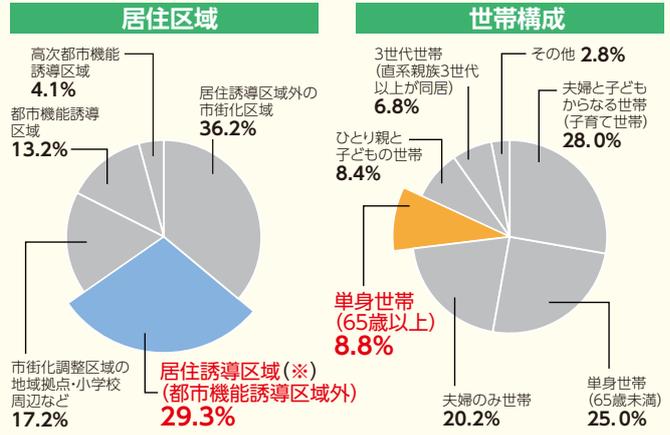
夢や希望

- 地域の活動を通して子どもたちと交流したい!
- 自分が持つ伝統行事の知識や経験を生かしたい!
- 仲の良い知り合いと一緒に健康を維持したい!

※居住誘導区域

公共交通などを使いながら病院や買い物ができゆとりある環境で暮らせるエリア

鈴木さんのような人は市内にどのくらいいるのかな



鈴木さんは、伝統行事の知識や経験を生かしていつまでも元気に活躍したいんだね！
もっと活躍できるようになるといいのにな～

ちょっと先の未来では



VR バーチャル・リアリティの略。マンガの中で鈴木さんが装着しているようなゴーグル型の装置を用いると、視界360°が覆われ、限りなく現実に近い世界に没入する感覚が得られます。

スーパースマートシティなら!

デジタルを活用して、健康を維持し、地域のにぎわいづくりにも貢献しているね! こうしたことが地域共生社会につながっていくんだね!



モデル2 齋藤さん



プロフィール

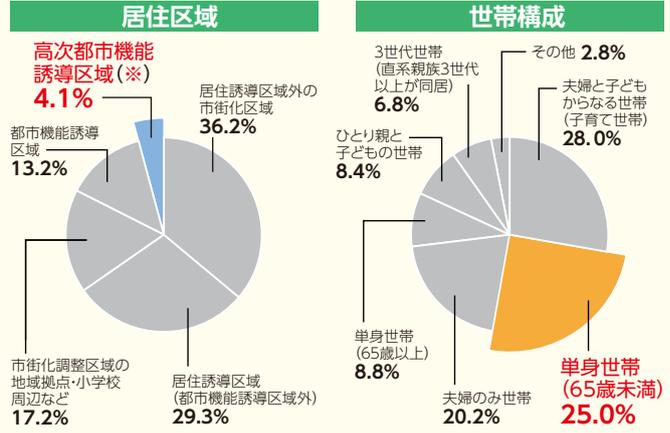
- 25歳、女性
- 単身
- JR宇都宮駅周辺部に住む

夢や希望

- 結婚や子育て、仕事も全力で頑張りたい！
- 自然あふれる庭付きの一軒家で暮らしてみたいな～
- 郊外部で暮らしていても、街なかで買い物やお酒も楽しみたい！

※高次都市機能誘導区域
公共交通を使いながら高度な医療や百貨店、大学など、都市機能が充実した街なかで歩いて暮らせるエリア

齋藤さんのような人は市内にどのくらいいるのかな



齋藤さんは、結婚した後も街なかで仕事をしながら、家族と一緒に広いお庭のあるお家に住みたいみたい！これらの夢がかなうまちでは、どんな暮らしができるのかな～

ちょっと先の未来では

配車システム GPSや地図ソフトを用いて、配車計画や運行計画を自動作成し、配送業務・輸送業務を効率化するシステムのこと。マンガの中では、完全自動運転(無人)のタクシーに活用されています。



スーパー
スマートシティなら！

子育てをしながらテレワークできたり、LRTに乗って仕事に行ったり、食事を楽しんだりしているね！家族の生活を充実させながら、地域経済循環にもつなげているんだね！



モデル3 手塚さん



プロフィール

- 40歳、男性
- 妻と子ども2人
- 市街地部に住む

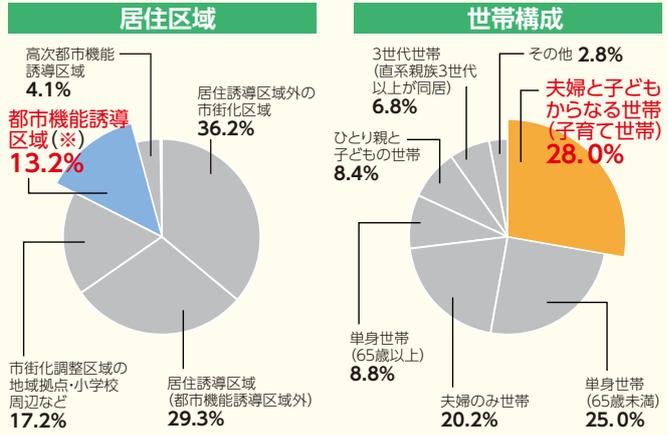
夢や希望

- 子育ての負担を減らしつつ、もう1人子どもがほしい！
- 地域の一員として積極的に参加したい！
- 災害時でも、地域で支え合えるといいな

※都市機能誘導区域

公共交通を使いながら病院や買い物など生活に必要な機能が充実した、便利に暮らせるエリア

手塚さんのような人は市内にどのくらいいるのかな



手塚さんは、子育てしながらも地域に参加したいという希望があるみたい！もっと人同士がつながりやすくなって、今よりもっと安心して暮らせる街になるといいよね～

ちょっと先の未来では

アプリ アプリケーションの略。マンガの中では、子どもの服を譲ってもらったり、避難準備状況が確認できたりと住民のコミュニケーションツールとして、スマートフォンアプリが活用されています。

スーパースマートシティなら！

スマホを使って親同士でやり取りをしたり、災害時にも地域のおじいちゃんと助け合ったりできてるみたい！デジタルも地域共生社会の実現に役立つんだね！



モデル4 加藤さん



プロフィール

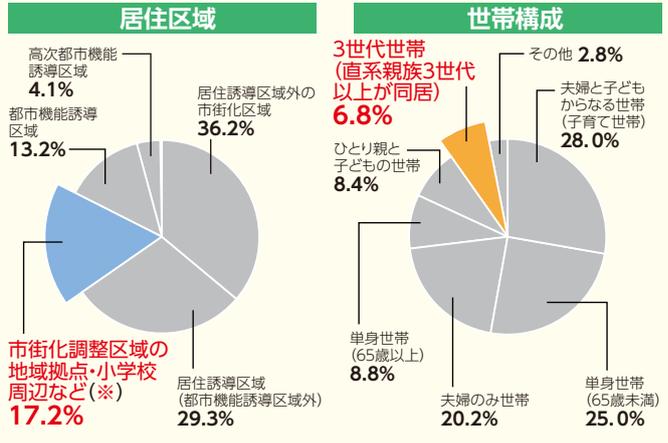
- 16歳、女性
- 祖父母、両親、兄
- 郊外部に住む

夢や希望

- 両親に負担を掛けずに通学したいな！
- 友達とも自由に出掛けたい！
- おじいちゃんもおばあちゃんも元気でいてほしい！

※市街化調整区域の地域拠点・小学校周辺など
農地や里山などの身近な自然に親しめるゆとりある居住環境エリア

加藤さんのような人は市内にどのくらいいるのかな



加藤さんは、将来、自分がやりたいことを自分の力でもっとできるようになりたいんだね！
どんなまちなら家族みんなが自分らしく生活できるようになるかな～

ちょっと先の未来では

夏いちご、夏〜秋に旬を迎えるいちごのこと。実際に大谷では、5〜10℃の低温に保たれている採掘場跡の地下水を利用し、夏の暑い時期でも効率よく温度を調節することで、夏いちごの栽培を行っています。

スーパースマートシティなら！

学びや遊び、食事などいろいろな生活の場面で環境に優しい乗り物に乗ったり、地域のエネルギーを活用した仕事にもチャレンジしたり、普段の行動も将来の夢も脱炭素社会につながっているね！



1～6 ページでは、「スーパースマートシティ」が目指す姿やその中で人々の生活がどう変わるかを見てきたよ！
このページではこうした姿の実現に向けて、具体的にみんながどのように考えたり、どのように行動したりすると
いいか、市内外で活躍している幅広い世代の人たちにヒントとなるようなお話をしてもらったよ！
そして最後は、市長に宇都宮市が目指すまちづくりについて聞いてみたよ！
みんなもそれぞれのお話を通して、未来の宇都宮について一緒に考えてみよう！



宇都宮市出身。宇都宮大学卒業後、市内でまちづくりに尽力し、現在はNPO法人とちぎユースサポーターズネットワーク代表として活躍中。

転んでも立ち上げられる 「挑戦」できる環境に



岩井 俊宗さん

「助け合い」と「経済」の両立

私はこれまで、NPOに所属して活動してきましたが、ボランティア活動を続けたくても、体力面や金銭面でつまづいて活動が終わってしまうという現場をいくつも見てきました。活動をしたいという「気持ち」に頼るだけでは継続できない時代になっていると思います。

そのため、地域で経済が回るような仕組みをつくり、「助け合い」と「経済」が両立するエリアをつくりたいと考えています。地域の活動をプロフェッショナル化して「仕事」にすることができれば、若者が地域に参画するきっかけにも、経済活性化にもなっていくのではないかと考えています。

子どもが自ら

チャレンジしていける社会を

PTAとして学校教育に参加する中でも感じていることですが、地域の活性化のためには、「子どもの力」を発揮していくことも非常に重要だと思っています。ただ、今の子どもたちは、塾や習い事などが豊富になり、予定が入っていない時間を自分でデザインし、やりたいことを決める経験が少なくなっているように感じます。

そのため、子どもや若者が自らチャレンジしていけるような社会の仕組みを整備していくこと、そして、後世により良い地球を残せるよう、環境問題に正面から向き合っていくことが、私たち大人の使命だと考えています。

「やってみる」が日常にある

「社会実験都市」うつのみや

宇都宮市は、企業や団体が新しいサービスやコンテンツを作るに当たって、「まず宇都宮市でやってみよう」と思える、失敗をプラスに切り替えられる力のある「社会実験都市」であってほしいと思っています。

そのためには、新しいことを受け入れる私たち市民側も、挑戦する人の背中を押すだけではなく、その人が転んでしまっても支えてあげられるような、まず「やってみる」が日常にある、まち全体がそんな空気になれると素晴らしいと思います。

日光(旧今市)市出身。民生委員として23年活動し、現在は宇都宮市民生委員児童委員協議会長として活躍中。

人との関わりを育み 共に支え合う 「地域共生社会」を



みやま 和子さん

家族との関わりの中で

育んできた「共生」の意識

私は民生委員として20年以上活動をしてきました。独り暮らしの高齢者宅を訪問したり、困り事の相談に乗ったりするなど、さまざまな活動を続けてこられたのも、私自身、人に対する興味関心が強いからだと考えます。

私は10人兄弟の末っ子なので、家庭の中で自然と「共生」の意識が身に付いたのだと思います。

物事に対する好奇心

チャレンジ精神の大切さ

私はスマホの操作が苦手ですが、好きな洋裁のこととなれば、裁縫の仕方などを調べるためにインターネットを使います。つまり、興味関心があれば、自然と「やってみよう」と行動につながるのだと思います。

また、コロナ禍で大変な思いをされた方はたくさんいらっしゃると思いますが、それをすべて「負」と捉えるのではなく、新たなチャレンジや体験につながる機会だと捉えることもできるのではないのでしょうか。

先日、地域活動の中で「オンライン会議」をしました。操作に手間取ってしまうなど、失敗も多々ありましたが、非常に面白い体験だったなと思います。

まちづくりや民生委員をはじめとした地域活動に関しても、まずはその取り組みを「面白い、楽しい」と思ってもらうことが重要です。私自身も、好奇心や興味関心があったから、さまざまな人や活動に巡り会えたのだと思います。

遠くより近くを見る

「向こう三軒両隣^(※1)」の精神

最近独り暮らしの高齢者世帯や核家族世帯が増えており、近所のつながりも希薄になりつつあるのではないのでしょうか。「向こう三軒両隣」という言葉がありますが、少し気に掛けてあげるだけでも「共生」は始まると思います。多くの市民の皆さんが、遠くを見るより近くを見るような気持ちで人との関わりを育むことで、共に支え合う「地域共生社会」が実現すると思います。

※1 自分が住んでいる家から道路をへだてた向かい側にある三軒の家と、左右に並ぶ二軒の家を指し、日本では古くから親しく交流する近くの家のこと。

「スーパースマートシティ」の実現に向けて

「オール宇都宮」で目指す 「スーパースマートシティ」

宇都宮市長 佐藤 栄一

人口減少・人口構造の変化をはじめ、デジタル技術の著しい進展、気候変動に伴う風水害の激甚化など、私たちを取り巻く環境は急速に変化し、社会が抱える課題も複雑化・多様化しています。

そのような中であっても、「スーパースマートシティ」は、今を生きる市民と未来を生きる次の世代が幸せに暮らせるまちが実現し、世界共通の目標であるSDGsの達成にも寄与していくための「切り札」となるものと考えています。

この特集では、市民の皆様へ「スーパースマートシティ」についてより身近に感じていただくため、市民をモデル化した4人のキャラクターに焦点を当て、本市が目指す「スーパースマートシティ」で生活がどのように良くなっていくのか、その様子を分かりやすくお示しました。

このような生活を実現するためには、少子化や温暖化への対応などの「待ったなし」の課題に対し、宇都宮で暮らす市民や団体、事業者、行政などが手を取り合い、「オール宇都宮」で立ち向かっていかなければなりません。

今後も、私が先頭に立ち、失敗を恐れることなく、「スーパースマートシティ」の実現に向けた挑戦を続けていきます。

皆さんも、自分ができることにチャレンジしていただき、「誰もが夢を持ち、かなえられるまち」に向けて、共に歩んでいきましょう。

宇都宮市出身。財務省、平成29年からつくば市副市長を経て、現在は市内を拠点に地方自治体のアドバイザーとして政策立案や経営支援で活躍中。

テクノロジーを生かして 「共創」に取り組む

毛塚 幹人さん

共に創る「共創」のまちづくり

私は東京やつくば市での生活を経て、宇都宮市の強みは人や産業、コミュニティの厚さや密接さにあると感じています。複雑で多様な社会課題に行政だけで対応することはできません。宇都宮の強みを生かし、「まちにどんな課題があり、どんな姿を目指すのか」といったことをさまざまな関係者と共に創り上げる「共創」のスタイルが、宇都宮のまちづくりでますます重要になってくると考えています。

多様な主体との連携で取り組む 「スマートシティ」

現在、宇都宮市が進めている「スマートシティ」は、デジタルテクノロジーをまちづくりに活用するもので、私もつくば市で積極的に取り組んできました。全国で多くの実証実験が展開されて「スマートシティ」間での競争も激しくなる中、市民や地元企業、スタートアップ企業^(※2)など多様な主体と連携しながら取り組んでいくことが、宇都宮の「スマートシティ」の独自性を高めると感じています。

テクノロジーの活用は、画一的になりがちな行政の取り組みについても、言語や障害などの多様性に配慮した柔軟なものに変え、市民が持つ本来の力を引き出すことにもつながります。テクノロジーありきではなく、丁寧に市民とコミュニケーションを取り、市民のニーズを起点とする宇都宮の地域独自の「スマートシティ」を描いていけると良いのではないのでしょうか。

若者が希望を感じる宇都宮

宇都宮の規模感の地方都市では、1人のアクションや変化がまちにインパクトを与え、個人が社会を変えていく可能性を確実に持っています。未来を担う子どもや若者が社会とつながり、「スマートシティ」などの地域のさまざまな取り組みに参加することで、社会を少しずつ変えて行く経験を重ねることが、宇都宮への希望や誇りを感じることに繋がっていきと考えています。

私も宇都宮の若者の一人として、国やつくば市での経験を生かしながら地域に貢献していきたいと思えます。

**SUPER
SMART CITY**



▲スーパースマートシティについて
詳しくはこちら！

URL <https://ssc.city.utsunomiya.tochigi.jp/>



発行：令和5年3月

宇都宮市 総合政策部 政策審議室

〒320-8540 宇都宮市旭1丁目1番5号

TEL:028-632-5056 / FAX:028-632-5422

E-mail: u2005@city.utsunomiya.tochigi.jp